

Press Release
報道関係者各位

平成 21 年 4 月 6 日
株式会社ユビテック
(大証 HC 6662)

ユビテック 省エネ情報を『見える化』するデジタルサイネージサービス「BX-Info」を開発 ～省エネ意識の向上を促すBX-Office連携サービス～

株式会社ユビテック(東京都品川区、代表取締役社長荻野 司、以下「ユビテック」)は、株式会社ナノオプト・メディアの「EXinfo」(デジタルサイネージ^{*1}運用管理サービス)を活用し、省エネ情報の「見える化」を可能にした「BX-Info」を開発しました。これはデジタルサイネージを活用したBX-Office^{*2}連携サービスとして、インターネットからリアルタイムで得た様々な文字や映像情報の配信に加え、BX-Officeが「見える化」させた設備制御状況やエネルギー消費量等の情報を「見える化」し、企業や公共施設等における省エネ意識の向上をはかっていくものです。

「BX-Info」は、BX-Officeが照明や空調の各設備機器から取得した省エネ関連情報(電気利用状況やCO₂排出状況等)や安全・安心情報(監視カメラ映像や人感センサー検知情報等)を閲覧者に対し「見える化」する仕組みを有しております。BX-Officeで「見える化」された情報は、自らがパソコンを利用して閲覧する仕組みであるため、限られた管理者や利用者しか目に触れる機会がないという課題がありました。そこで、本システムでは外部のASPサービスから提供される天気、ニュース等の地域・生活情報、企業や公共施設独自情報と共に、BX-Officeから取得した情報をデジタルサイネージに載せてフルハイビジョンのマルチ画面上に配信することによって、不特定多数の人が閲覧操作を要することなく、自然に目に入る仕組み「見える化」を実現しました。

「BX-Info」を導入すると、省エネ等の情報が自然と目に入ってくるため、促すことなく省エネ意識の向上が図れるとともに、省エネ推進企業としてのアピールにもつながります。なお、従来システムで同サービスを導入した場合、大がかりな機器の設置工事が必要となりますが、BX-Officeにより、より簡単かつ安価に設定・設置することが可能となります。また、DVDやHDレコーダ等の映像を配信する場合は、ユビテックの映像エンジンモジュール「UBIRIS Pro」を併用することで、異なるインタフェースを搭載するAV機器の集約が可能となり、ディスプレイからつなぐケーブルを1本にし、機器設置工事の負担を軽減することもできます。

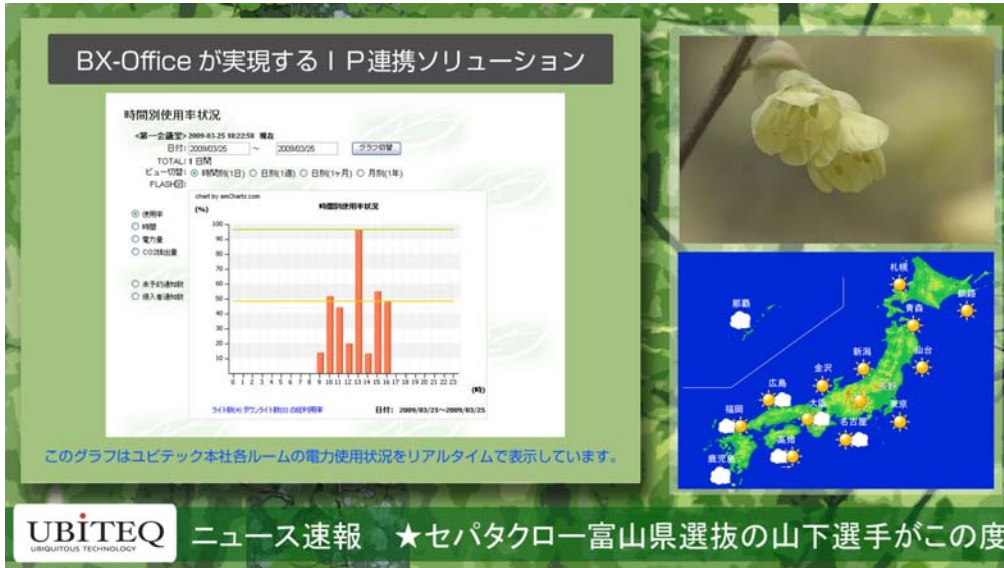
来年4月に施行される改正省エネ法(エネルギーの使用の合理化に関する法律)により、本年度からエネルギー使用量の測定が必要となり、年間の規定量を超える企業は複数事業所のエネルギー使用状況を国に報告する義務が生じます。企業や公共施設に課せられる省エネ対策は以前にも増して重要になってきます。

引き続きユビテックでは、あらゆる場所や場面に対してBX-Officeを活用したITインフラ、ソリューションの提供を行いながら、環境保全に向けITの持つ可能性を追求してまいります。

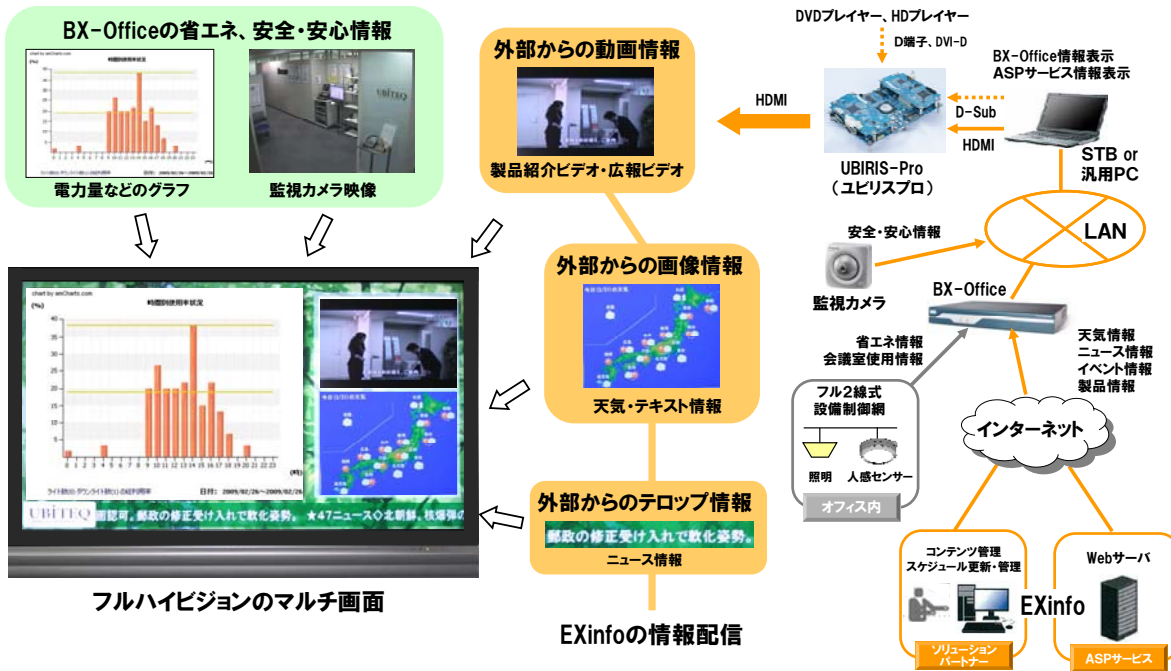
*1 デジタルサイネージとは、屋外や交通機関、店頭、公共施設などで、ネットワークに接続したディスプレイ端末を使ってタイムリーに情報を発信するシステムのことです。

*2 BX-Officeとは、ユビテックが開発したインターネットと設備制御の統合ゲートウェイです。本製品により、オフィスの照明・空調制御や監視設備(警備システムやセキュリティシステム等)といった複数の設備制御システムとの連携が可能となり、BX-Office を1台設置するだけで、ネットワークと設備制御が1つの社内システムとして運用できるようになります。

■ 「BX-Info」ディスプレイ配信例



■ 「BX-Info」システム構成



以上

【本件に関するお問合せ先】
 株式会社ユビテック 担当: 管理本部 総務課
 電話: 03-5487-5560 FAX: 03-5487-5561